

熊大通信

vol.

35

2010 WINTER

特集 世界が注目!
熊本大学が
拓く未来。



04

KUMADAI マグネシウムの世界



国立大学法人
熊本大学





SCENERY OF CAMPUS キャンパスの風景

文学部・法学部棟

平成21年9月に、耐震工事と大幅なリニューアルが完了したばかりの文学部・法学部棟。

熊大通信 vol. 35

2010 WINTER



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝淵 園子／文学部
河野 順子／教育学部
田村 耕一／法学部
高宗 和史／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
太田 訓正／大学院医学薬学研究部
首藤 剛／大学院医学薬学研究部
西村 兆司／企画部広報戦略主幹

【制作】 株式会社カラースプランニング

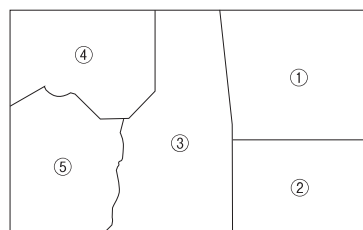
CONTENTS

- 03 特集 世界が注目！熊本大学が拓く未来。
- 09 研究室探訪 みんなの心に届け！“musicking”
音楽の力で地域を元気にしよう
文学部 総合人間学科 芸術学研究室
- 11 特集 「TABLE FOR TWO」開始から1年を迎えて
すべての人がWIN-WINの関係を築く新たな取り組み
- 13 国際交流 座談会
現役留学生と留学生OB・OGが築く
絆のネットワーク
グローバルに未来をつなぐ
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 Information

世界が注目！ 熊本大学が拓く未来

ひら

国立科学博物館（東京・上野公園）で「大学サイエンスフェスタ」開催



- ① 9日間の開催で、約16,000人の来場があった
- ② 手を近づけると、反対の手に持っている蛍光灯が光るプラズマ実験。プラズマをより身近に感じることができる
- ③ 各研究ごとに映像を用いて展示。来場者は興味深く見入っていた

- ④ 「KUMADA | マグネシウム合金」の軽さをクイズ形式で比較するブースでは、子どもたちが楽しそうに体験
- ⑤ 一番人気の「爆衝(ばくしょう)レンズ」。テレビで見たことがある人も多く、リンゴを軟らかくする実演には、みんなくぎ付けに。このイベントでは、一般の人々を対象にした爆衝レンズの実演を行った





鉄、アルミニウム、チタン、KUMADAIマグネシウム合金でできた同じ見た目のアレイを持ち上げ、重さを比較する体験型展示

「爆衝レンジ」で軟らかくしたリンゴを片手でギュッと絞ると中からジュースがあふれ出る

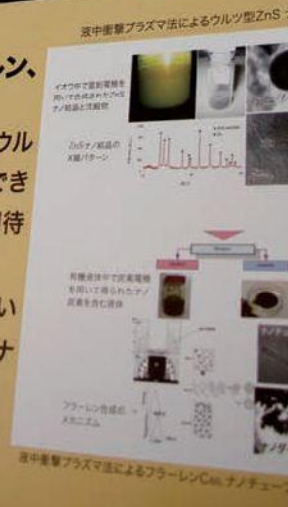
03 衝撃・超高压・超重力の世界



ウルツ型ZnSナノ結晶とフラーレン、ナノチューブ、ナノダイヤモンドの合成

イオウ中でZn電極を用いて高温相のウルツ型ZnOのナノ結晶を合成することができます。この物質は様々な発光材料として期待されています。

また水中や有機液体中で炭素電極を用いると、フラーレン(C60)や、ナノチューブ、ナノダイヤモンドも合成することができます。



熊本大学には、世界的に注目を集める特色ある先端研究が複数あり、これらは、人類の未来を切り拓く可能性を秘めた、驚きと発見に満ちた研究ばかりです。近い将来、熊本大学の研究成果が人々の生活を豊かに、そして便利にすることが期待されています。

「未来はどんな世の中になっているのだろうか？」という好奇心に応え、日ごろの研究内容を紹介する企画展示イベント「大学サイエンスフェスタ」が、11月20日(金)〜29日(日)に、国立科学博物館(東京・上野公園)で開催されました。

パルスパワーやプラズマ、水中衝撃波など、「衝撃エネルギー科学」に関する研究や、2001年に熊本大学で開発された画期的金属である「KUMADAIマグネシウム合金」など、熊本大学の中でも特色ある4つの研究を、分かりやすい実験装置や体験型展示物を用いて紹介しました。来場者に説明を行った関係者や学生らは、研究成果に関心を示す企業や興味を持つ子どもたち、そしてテレビや新聞など各種メディア取材陣の来場に十分な手応えを実感。関東在住をはじめとした多くの熊大OB・OGの来場も、大きな励みとなりました。

今号の特集では、「大学サイエンスフェスタ」での展示を通じ、熊本大学が拓く未来を取り上げます。

パルスパワーとは、エネルギーを蓄えて瞬時に二斉放電させる、巨大な電力のこと。このパルスパワーが作用する空間は、瞬間的に超高エネルギー密度状態となり、パルスパワーは電界、磁界、衝撃波、光熱、プラズマなどさまざまな状態へと変化し、通常では存在しない物理現象を発生させます。これらの現象をコントロールできれば、これまで不可能とされていた作用や効果に、さまざまな期待が持てるようになるのです。

このパルスパワーを用いて熊本大学では、無痛がん治療の研究に取り組んでいます。現在研究されているがん治療は、電界を直接患部に接触させるもので、痛みや皮膚表面の損傷を伴います。そこで、おわんのような形をしたアンテナを用い、電磁波発生部から発生したパルスを反射させ、患部に接触しない治療の実現を目指しています。このアンテナを用いた治療法は、世界初の試みとして国内外から注目を集めており、従



パルスパワーを用いたオゾン発生器の実験。緑色の液体の色素成分は、オゾンによって分解され、左の液体のように変化していく



世界トップレベルのパルスパワー研究に取り組む秋山秀典教授。グローバルCOEプログラム拠点リーダーも務めている

「マ」の世界

熊本大学が拓く未来。

「衝撃波」の世界



爆薬と一緒にリンゴを水中に沈めて「バーンッ」。一瞬で、上のような丸ごとジュースに



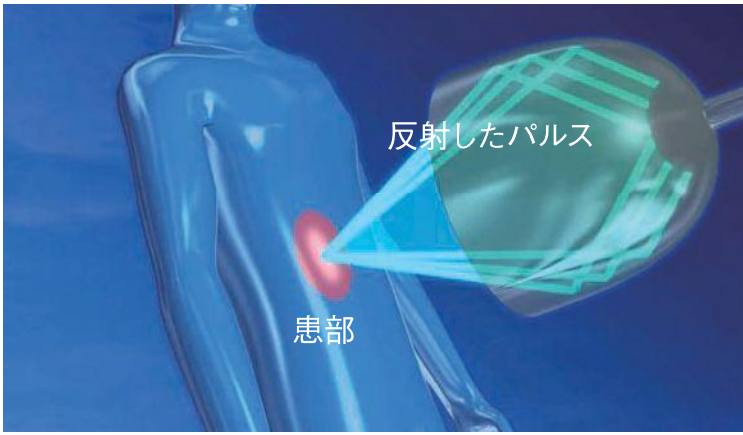
バーンッという爆発音とともに、硬かったリンゴが「一瞬で軟らかくなる映像を、最近テレビで見たことはありませんか？これは熊本大学が行っている、これまでにない新エネルギー「水中衝撃波」の研究です。「水中衝撃波」とは、水中で爆薬などを用いて爆発を起こした際に発生する、音よりも早く伝わる、強力な水圧のこと。この「水中衝撃波」を物質に与えると、「瞬で物質構造を破壊したり硬い金属を変形させることができるため、加工に必要な燃料や資材が節約できるようになると期待されています。

例えば、リンゴやパイナップルに「水中衝撃波」を与えると、果肉部分の植物細胞内に含まれる気泡が、衝撃波で膨張し細胞壁を破るため、ストローを刺して中身をジュースとして飲めるほどに軟らかくなります。この方法で肉を軟らかくしたり、干しシイタケを粉末にしたり山芋をとろろにしたりと、さまざまな食品加工が「瞬で可能になるのです。現在は調理機器への実用化に向けて、さらなる研究が進められています。

このほか、「水中衝撃波」を金属板に作用させる「爆発成形法」では、金属板に文字やデザインを浮き彫りにすることができ、



熊本大学の表札は「爆発成形法」で作



おわん型のアンテナを用いてパルスを一点に集中させ、患部に接触することなくがん治療を行う画期的な研究は、国内外から注目を集めている

来のがん治療では難しかった領域にもアンテナを用いた方法で、効果的なアプローチが可能になると考えられています。

このほか、湖などに発生する植物性プランクトンに、水中放電プラズマを当てて植物細胞を破壊することで、薬品を一切使わない水質改善を目指したり、パルスパワーやプラズマを利用してオゾンを発生させ排気ガスを分解したり、パルスパワーで廃材を適度に粉碎し材質を回収するなど、環境やリサイクルをキーワードとした研究も行われています。

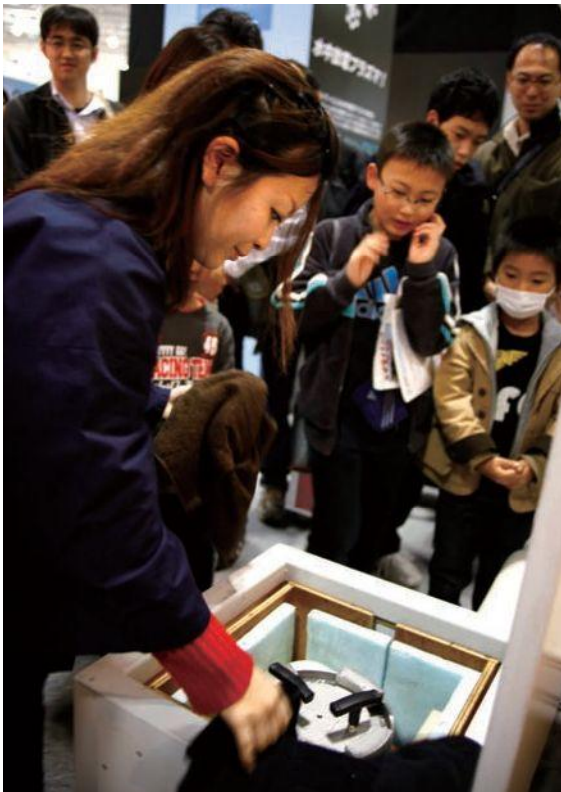
SCIENCE

01

「パルスパワー・プラズマ」



特集 FEATURE 世界が注目!



「水中衝撃波」を用いた「爆衝レンジ」の実験に子どもたちは興味津々。近い将来、君たちの家にも「爆衝レンジ」が登場するかも

SCIENCE

02

「爆発と



「水中衝撃波」について約40年にわたり研究する第一人者、伊東繁教授

低コストの看板やレリーフ製作などが可能になります。また、鉄とアルミニウムなど異なる金属同士を衝撃波で接合させ、より高機能な金属を作り出す「爆発圧着法」の研究にも取り組んでいます。この画期的な研究から誕生した金属は、すでに工業部品の素材として現場で利用されています。

SCIENCE 03

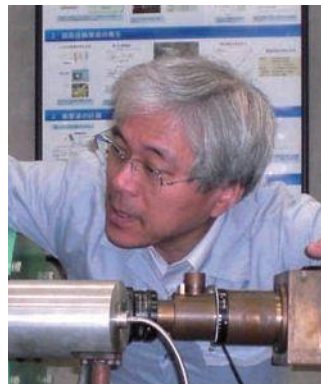
「衝撃超高压・超重力場・衝撃プラズマ」下 における物質の世界

物質は、宇宙に存在する超重力場、超高压、超高温などの極限状態において、特異な性質や本来の姿を現したり、新しい構造の物質が生まれたりします。熊本大学では、自然界に存在する極限状態を人工的に発生させ、これまで知られていなかった現象の発見や新物質の合成など、新しい研究を行います。

超重力場での物質の研究は世界的にも全く行われておらず、唯熊本大学だけが研究をしているのです。独自に開発した高温・超遠心機で、最大100万Gを超える高温・超重力場を発生し、固体中に存在する、軽い原子、と、重い原子が移動して別れる「構成原子の沈降」を世界で初めて実現しました。超重力場は、原子の沈降や変位を誘起さ



100万気圧以上の固体の衝撃超高压実験を実現する二段式軽ガス銃などの設備



超重力場を用いた、世界でもオンリーワンの研究に取り組む真下茂教授

せることができるので、物質内の元素や同位体などを分離・濃縮したり、原子スケールの傾斜構造、分子・基の配列・配向、強制固溶、結晶成長など、新しい物質プロセス法を開拓する可能性を持っています。

このほか、大砲と同じ原理を利用した「火薬衝撃銃」で、物質に超高压の衝撃波を与え超高压状態を発生・計測する実験を行っ

ています。このような実験によって水素やダイヤモンドの金属化や、地球や木星など惑星内部の研究を行うことが可能となります。

パルス放電による超高温の衝撃プラズマを用いたナノ物質合成にも成功し、本研究では液晶テレビや携帯電話のディスプレイや光媒体など、工業製品へ技術発展する可能性も秘めています。



熊本大学の真下研究室が開発した高温・超遠心機の模型と写真。最大100万Gを超える高温・超重力場を実現することができる、無限の可能性を秘めた装置

特集
TOPICS

世界が注目！ 熊本大学が拓く未来。



SCIENCE

04

「超合金KUMADAI」マグネシウム」の世界

「KUMADAIマグネシウム合金」と、アルミニウムのそれぞれで作った新幹線の模型を用いて、スピードと消費電力を比較する実験装置。実際の新幹線はアルミニウム合金でできているため、「KUMADAIマグネシウム合金」で製作すれば、車体の軽量化・高速化、省エネルギー化に期待できることがわかる

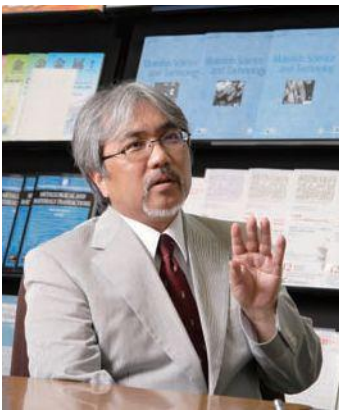


熊本大学は2001年に、軽くて強く熱にも強い合金「KUMADAIマグネシウム合金」を開発しました。これまでは軽量・超強度の金属といえば、ジュラルミンケースで知られるジュラルミン合金が一般的で、その強度と軽さから、航空機の材料としても使用されてきました。

そのジュラルミン合金をはるかに超える高強度を打ち出したのが「KUMADAIマグネシウム合金」。マグネシウムに亜鉛とリチウムという元素を混ぜたところ、長周期積層構造という原子配列により、超強度、超耐熱、超軽量の画期的な合金が誕生したのです。その強度は、直径1cmのワイヤーで車5台分を吊るし上げることができるよう。航空機や自動車などの輸送機器の素材として利用が実現すれば、強度はもとより、軽量化による燃費の向上、さらには排気ガスの削減にもつながります。

す。また、強度と軽さを生かして、肢装具などの医療用具への実用化も進められています。

熊本大学と、熊本県や各団体、産業界が協力して取り組む「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」では、「KUMADAIマグネシウム合金」の実用化に向けたさまざまな研究が行われています。熊本大学から誕生した画期的な合金が、世界の共通語になる日も遠くないかもしれません。



「KUMADAIマグネシウム」の生みの親、河村能人教授

「大学サイエンスフェスタ」の展示

「大学サイエンスフェスタ」で展示した、熊本大学の特徴ある4つの研究の実験装置が、「2010くまもと産業ビジネスフェア」に登場します。実際に見て触れて、体感してください。

2010くまもと産業ビジネスフェア

日時：2月4日(木)・5日(金) 10:00~17:00
会場：グランメッセ熊本 (熊本県上益城郡益城町福富1010)

地元・熊本で
再現!



※イメージです

研究室探訪

Laboratory Exploration

木村研究室

文学部

総合人間学科
芸術学研究室

理論や技法、歴史など、多様な角度から音楽学の研究を行っている木村研究室。近年では、人間が生まれながらに持つ音楽性＝“musicking”（※）に注目し、人間の根源的な力を引き出すことで心身の健康の向上を図る、音楽療法のための研究を進めています。

研究の一環として、週に1回キャンパス近くの子飼商店街の「子飼サテライト」で、地元の高齢者を対象に歌のセッションを開いています。内容は学生たちが演奏する音楽に合わせ、童謡や演歌、歌謡曲などを参加者とともに歌うというもの。人は歌うことによって心肺機能が向上したり、感情表現が豊かになるといわれます。初めはただ聴いているだけだったお年寄りの何人かは、若いころ流行していた歌を聴いて自然と歌を口ずさみ、その当時を思い出して雄弁になっていったそうです。そのほか、歌うのを恥ずかしがっていた人も、人前で得意の歌を披露するほど活発になるなど、この取り組みを始めて約3年半で、徐々に効果が出てきました。

また、この活動のもう一つの目的は、学生が自ら企画・実行し、その結果について反省・分析するということです。そのため、セッションが終わった後はスタッフ全員でミーティングをして内容を振り返り、良かった点や改善すべき点を挙げ、それに対する答えを導き出すことで次回のセッションへつなげます。「社会に出たときに、プロとして相手のことを考えながら、一つの課題を完結させる力を身に付けてほしい」と木村准教授。ここで学んだ経験を生かし、楽器メーカーの企画担当として活躍している卒業生もいます。

今後は子飼だけでなく、県内の高齢者の多い山間部や地域交流が希薄な新興住宅地へと活動の場を広げ、老人の孤独死など、高齢化に伴う問題が急増している社会に向けた研究を続けていく予定です。また、高齢者だけでなく子どもや障害者が心地よく暮らせるコミュニティー作りを行い、さらなる地域貢献を目指します。

※musicking
musicを現在進行形にした造語。近年、音楽学や音楽療法の研究者の間で、「人間が本来持っている音楽性」「音楽が本来持っている力」という広い意味で使用されている

熊本大学には、音楽の力を用いた“ノンバーバル（言葉ではない）コミュニケーション”で、人の心と体を健康にする「コミュニティー音楽療法」を実践している研究室があります。今回は、キャンパスを抜け出し、音楽を通じて地元の人々と積極的に交流を行う木村研究室を訪ねました。



- ▶ 歌に用いる小道具は、すべて学生たちの手作り
- ↑ 参加者が楽しく歌えるようにイラストが描かれた歌詞カード
- ◀ 「コミュニティー音楽療法」のためのミーティング中
- ↓ 「子飼サテライト」での歌のセッションの様子





みんなの心に届け!“musicking” 音楽の力で地域を元気にしよう

木村研究室には、室長の木村博子准教授(左から2番目)をはじめ、大学生17名、大学院生1名が所属している



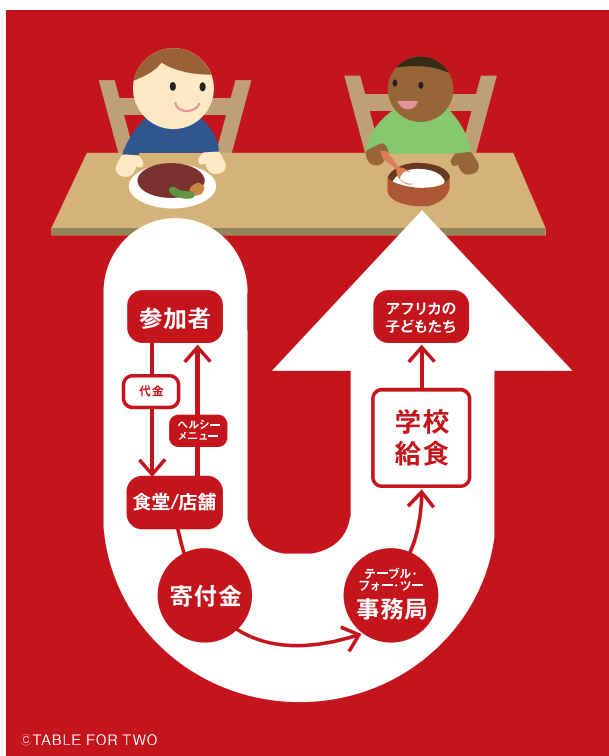
「TABLE FOR TWO」

「TABLE FOR TWO」開始から1年を迎えて

すべての人がWIN-WINの関係を築く新たな取り組み

1年間で22000食達成！
全国トップレベルの熊本大学

熊本大学が「TABLE FOR TWO(テーブル・フォー・ツー、以下TFT)」の取り組み始めて1年。TFTとは、対象となるメニューを食べると、一食当たり20円の募金を生み出し、それが途上国の子どもの給食となるといふものです。20円という金額は、途上国の給食1食分に当たります。途上国の飢餓と、先進国の生活習慣病や肥満の解消に同時に取り組み、「食の不均衡」の解消を目指しています。この取り組みは、2007年に創設された日本発の社会貢献活動で、熊本大学は、国立大学で初、そして九州の大学の中でも初めてのTFT導入校でした。2009年現在、文部科学省や外務省などの中央省庁や大手企業など参加団体は200を超え、スーパーやコンビニ、カフェでもTFTに取り組み団体が増加しています。現在の支援先は、東アフリカのウガンダ、ルワンダ、マラウイの3カ国ですが、今後も支援地域を拡大していく



©TABLE FOR TWO

TFTの仕組み

対象となるメニューや食品を購入すると、一食につき20円の寄付金がTFTを通じて開発途上国で苦しむ子どもたちの学校給食になる。また、先進国の人々はヘルシーな食事を取ることで、肥満や生活習慣病の解消にもつながるWIN-WINのプログラム

TFTホームページ http://www.tablefor2.org/jp/index_jp.html

予定です。

熊本大学ではまず、「熊大生協」が運営する生協学生会館の食堂から始まり、その後、2月には医学部附属病院内の食堂「花みずき」を運営する「恵和会」、4月から「学校福祉協会」が運営する黒髪北キャンパス内の「北地区食堂」でTFTメニューの提供を開始しました。それぞれが運営す

る、合わせて6カ所の食堂で開始1年を待たずに1000人の子どもの1年分の給食22000食を生み出し、金額にして44万円の寄付を実現しました。これは、全国の大学でもトップレベルの成果です。

大学が主体となって始めた熊本大学のTFT活動は、その運営に関するノウハウを提供できる体制が整っていたことから、



TABLE FOR TWO



TABLE FOR TWO

ウガンダでの給食配布 給食は学校に通う楽しみの一つ



©TABLE FOR TWO



©TABLE FOR TWO



他大学からも問い合わせが増え、見学者も訪れるようになりました。1年前は九州で熊本大学だけだったTFTの取り組みは、今では宮崎、大分、福岡、鹿児島、熊本で導入され、さらに2010年には佐賀でも実施が決定。昨年11月に福岡県の西南学院大学で行われたTFTイベント以降から、大学の枠を越えて、病院や企業とのつながりも生まれ、TFTを通じた輪が広がっています。

多くの利用者に食べてもらいたい工夫を凝らしたヘルシーメニューの展開

熊本大学内でTFTメニューを提供している「熊大生協」「恵和会」「学校福祉協会」では、少しでも多くの人に利用して欲しいとさまざまなTFTメニューを提供しています。「熊大生協」と「学校福祉協会」は、学生の利用が多いため、価格を抑えながらも、ボリュームのあるメニューが特徴です。「熊大生協」は野菜をバランスよく組み込んだ肉や丼ものなどのメニュー、「学校福祉協会」は魚や野菜を中心としたメニューを展開。それぞれ、テイクアウトや弁当販売にも対応しています。医学部附属病院内で運営している「恵和会」は、医師や外来を訪れた一般の人の利用も多いため、健康について関心を高めてもらえるようにと、日替わりの「ヘルシーランチ」を用意。いずれも利用

者を飽きさせないために、それぞれで工夫を凝らし、常に新しいメニューの開発に取り組んでいます。また、熊大生協は、全国の大学生協の会議やセミナーの場でTFTの紹介を積極的に行うほか、TFTの導入に向けて、各地の大学生協の支援を行うなど、TFTの普及に大きく貢献しています。

TFT事務局との窓口になる国際課・菊地課長は、「食を通じた健康生活への気づきと国際貢献に参加するきっかけにして欲しい」と、TFTに関する情報をまとめ「熊大TABLEFOR TWOニュースレター」としてメール配信を行っています。TFTの普及には、大学の枠を飛び越え、横のつながりを広げることが求められます。メール配信以外にも、ポスターの掲示や写真展の開催など、学内に情報発信の場を設けることで、より多くの人のTFT活動への参加・協力が進むよう取り組んでいます。

職員の呼び掛けからスタートした熊本大学のTFT活動。今では学生の参加も増えてきました。将来の人材を育成する教育機関が取り組むことで、学生たちが国内外のさまざまな問題を考えるきっかけになっています。今後さらなる学内での拡大・定着に向けて、職員、学生が一体となり、地域社会と連携しながら普及に取り組んでいきます。

熊本大学生協(黒髪北地区・南地区)

TFTメニューの中には、丼物などテイクアウトが可能なメニューもあり、一人暮らしの学生にとっては貴重な存在

恵和会(熊本大学医学部附属病院)

熊本大学附属病院内の食堂「花みずき」と「くすの木」で実施。日替わりTFTメニューの内容は約20種類もあり、栄養バランスに優れている

学校福祉協会(黒髪北地区)

学生向けに低価格のメニューを提供するために、自家製麺機で作った麺の「ちゃんぽん」280円は、ボリュームたっぷり!



座談会

現役留学生と留学生OB・OGが築く 絆きずなのネットワーク グローバルに未来をつなぐ

熊本大学では、世界各国より優秀な研究者や留学生を多数受け入れ、国際交流の推進を図っています。今回は、中国人留学生とそのOB・OGによる座談会をレポートし、本学の国際交流の取り組みについてご紹介します。



留学生と受け入れる大学側、そして熊本大学から留学したOB・OGと、それぞれの視点で熊本と中国の交流について、熱い討論が行われた

中国を核とした国際化の現状

現在、熊本大学で受け入れられている留学生の数は376人、44カ国からの研究者や留学生がキャンパスライフを送っています。その中の141人、37・5%を中国からの留学生が占めており、本学と中国の絆を築く国際交流のパイプとして、留学生とそのOB・OGへの期待が高まっています。

本学では中国で開催される留学フェア（主催・日本学生支援機構）へ参加。「熊本大学上海オフィス」を設置し、留学生受け入れにともなう連絡調整など国際交流推進の拠点として、稼働しています。そのほか、大学間の交流協定の締結と拡充や、中国語パンフレットの配布な

ど、多彩な取り組みを展開。中国からの留学生誘致に取り組んできました。

11月には「熊本大学設立60周年記念式典」に際し、中国からの現役留学生とそのOB・OGが一堂に会した記念座談会「熊大と中国をつなぐ」（於・くすの木会館）を開催。現役留学生をはじめ、歴代OB・OGも中国から駆け付け、活発な意見交換が行われました。こうした横のつながりをもたらず交流会は初めてのこと。思いもひとしおにそれぞれの留学生生活や卒業後の母国での生活について語り合いました。



座談会に駆け付けた谷口功熊本大学長の挨拶。「皆さん、ぜひ世界のリーダーとなって活躍してください」とエールを送った

現役留学生と留学生OBの輪を築く

留学生OB・OGにとって、かなり昔は大学側の受け入れ態勢も整っていない時代。奨学金制度も十分ではなく、アルバイトをしながら研究と両立させることの難しさや、自ら声を掛ける勇氣を持たないと誰にも助けてもらえないなど、当時の苦労がしのばれました。

一方、現役留学生にとっては、チューター制度の設置や、宿舍となる国際交流会館の拡張をはじめ、学内の体制は整ってきています。奨学金制度も充実してきたものの、一般に支給期間は1年。上海では日本語を勉強する準備期間から5年間支給される奨学金もあるといい、さらなる受け入れ態勢の充実を望む声も上がりました。

また、大きな問題点として、現役留学生とそのOB・OGを核とするネットワークがないために、留学終了後に母国に帰って就職しようとしても、情報を入力することができず、就職活動に不利な



「留学時の苦勞は苦勞ではない」と語る留学生OB。「強い意志さえあれば乗り越えられる」と現役留学生にアドバイス

International exchange Report

国際交流レポート／平成21年9月～21年11月

9月1日 / 平成21年度フライブルク短期語学留学プログラムを実施 (9月26日まで)

熊本大学各学部の2年生30名が参加し、南西ドイツのフライブルクで短期語学留学を実施しました。ドイツ語集中講座を中核にドイツ文化に親しみ、また各自の専門分野や興味に応じた研究調査活動に励みました



10日 / 韓国・培材大学校来学

17日 / 九州経済産業局・国際部長来学

17日 / 「5th Kumamoto International Workshop of Fracture, Acoustic Emission and NDE in Concrete - KIFA-5」(9月18日まで)を開催

熊本大学でのアコースティック・エミッション(AE)研究の活発さに基づいて1998年から開催している国際集会の第5回。今回は、RILEM TC212-ACD研究委員会の総括として、KIFA-5としての国際集会と最終委員会をKKRホテル熊本にて開催。海外10カ国からの参加者を含む44名が参加しました

18日 / 韓国科学技術院(KAIST)と熊本大学衝撃・極限環境研究センターとの共同シンポジウムを韓国・大田広域市で開催

21日 / 韓国科学技術院(KAIST)主催「国際学長フォーラム」に参加
本学からは谷口学長が出席し、Green Technologyに関する産学官の役割について発表しました

10月6日 / 短期留学コース開会式

13日 / 学院GP/IT時代の教育イノベーター養成プログラム「熊本大学国際セミナー」を熊本大学にて開催

オーストラリア・メルボルン大学教授で、広島大学高等教育研究開発センター研究員のサイモン・マーティンソン先生をお迎えし、「高等教育の世界的趨勢：グローバル化・競争・知識の視点から」という演題で講演会を開催しました。学内外から36名(学内33名/学外3名)が参加しました

22日 / 国際関連業務スキル向上研修第1回の実施

24日 / 日本留学フェア(上海)へ参加(10月25日まで)

30日 / 山東大学(中国)と大学間交流協定調印式

30日 / 山東大学(中国)・亜細亜大学(韓国)・熊本大学三大学ワークショップ(31日まで)を開催

山東大学17名、亜細亜大学10名、本学教員約30名が参加して、工学系6専門分野における教育研究活動の情報交換、研究室見学を実施し、今後の共同研究についても意見交換しました

31日 / 熊本大学60周年記念事業の一環として国際学長フォーラム(第7回熊本大学フォーラム)を熊本大学にて開催

本学協定校11カ国26大学の学長、副学長の出席のもと「高等教育のグローバル化と国際的教育研究連携の可能性と課題について」という議題で活発な意見交換が行われました



11月1日 / 吉林大学(中国)、四川大学(中国)、朝鮮大学校(韓国)と大学間交流協定調印式

2日 / 山東大学威海校(中国)・学長一行5名来学(表敬訪問、学術・学生交流の打ち合わせ)

12日 / 第4回環黄海域国際マグネシウムシンポジウム(The 4th Pan-Yellow Sea Rim International Symposium on Mg Alloys)を、本学工学部百周年記念館で開催

中国、韓国、台湾の各国の研究者、学生ら約120名が参加し、Mg合金に関する最新の情報交換、ならびに、研究討論を行い、きわめて有益なシンポジウムとなりました。また11日には同シンポジウムに関するMOU(Memorandum of Understanding)の調印式を実施しました



18日 / みなまた環境マイスター養成プログラムによるイブニングセミナーを水俣環境テクノセンターにて開催

中国東北大学機械工程と自動化学院の朱彤副教授をお招きし「中国東北地方の水資源と都市下水処理の現状と将来展望」と題した講演を行い、プログラム受講生・水俣市民など23名が参加しました



(右) 牧野雄二名誉教授の尽力によって、座談会を開催(下)現在の留学生サポート体制について語る現役留学生たち



を被ることが少なくない状況が提起されました。
留学生OB・OG名簿もない現状に、一同はこの座談会を機会にネットワーク作りの大切さを確認。現役留学生と留学

生OB・OGの交流の場を設け、いつでも連絡が取れるように名簿作成にも着手しようという意見が出されました。
「熊本大学イノベーション推進機構(KICO)」では、8月に「イノベーション推進人材育成センター(HUREC)」を設置。留学生に向けた「ビジネス日本語」科目を設置して、社会人として求められる日本語コミュニケーション能力の育成に取り組んでいます。座談会の中でも習得が難しいという意見が出た「日本語力」を高め、「今求められる人

求められる人材の育成から国際化へ



学生の増加に対応して11月に「国際交流会館」が新たに3棟オープン。既設の宿舍と合わせて全232室になり、部屋数が倍増した。研究に集中できる環境もさらに充実している

材」を育成。さらに、日本に残って働くために必要なソフト面の支援も行うことを目標の一つに掲げています。
座談会では留学生自身の学ぶ姿勢について触れるとともに、大学側の「育てる

力」についても言及。「優秀な学生や研究者を受け入れることだけが大切ではない。個々の持つ力を十分に引き出して、優秀な研究者に育てることが大学の使命であり、研究の成果が熊本大学のPRになる」という意見もありました。
現役留学生と留学生OB・OGの輪が、熊本と中国の絆を深く強いものにする力ギとなります。今回の交流会で得た力が、国際化を支える大きな力になることを期待し、熊本大学ではさらなる発展を目指してサポート。国際化を推進していきます。

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、全国で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



浦野 真未 Mami Urano

株式会社熊本県民テレビ 編成制作局制作部 勤務
文学部地域科学科社会学分野・平成18年度卒



在学中は社会学という懐の深い学問を専攻しているのをいいことに、興味の赴くままにサークル活動や研究など、伸び伸びとチャレンジさせてもらいました。学問や熊大の校風が好奇心旺盛なことを良しとするとところがあり、その通りに過ごしていたらそれが仕事となって、放送局の番組制作ディレクターになりました。この仕事は番組の内容を決め、取材・編集・放送までを行う現場監督です。人と同じ関心を持ちながら、人と違う視点で考えなくてはならないという難しさと面白さに、毎日悪戦苦闘しています。大学は自分の長所を見つけ、自ら伸ばす場だと思います。今しかない青春を謳歌（おうか）してください！



広瀬 尚孝 Naotaka Hirose

御坊税務署 個人課税部門（和歌山） 勤務
法学部・平成18年度卒



就職して初めて九州を離れ、現在は和歌山県で国税専門官として、相続税や贈与税の税務相談、および税務調査をしています。税金の法律的な根拠はすべて税法にあります。税法は法律の中でも特に難解といわれ、さらに毎年法改正が行われるため、就職4年目の今でも頭を抱える日々が続いています。また、税法は社会情勢に影響されるため、常に自己研鑽（けんさん）が必要です。今思えば大学1、2年のころは友人とよく遊び、勉強はあまりしなかったのですが、後半は公務員試験や資格試験のために人生で一番勉強しました。法学部では民法を専攻していたため、その知識を生かせる仕事に就けたことに喜びを感じます。



橋本 剛 Tsuyoshi Hashimoto

ナスカー級建築士事務所（東京） 勤務
工学部環境システム工学科建築系・平成17年度卒／大学院自然科学研究科建築学専攻・平成19年度修了



在学中は学内活動だけでなく、他大学の学生も巻き込んだワークショップを展開していました。その中で、多様な価値観や個性に触れながら、みんなでつくることの楽しさを実感。仲間と共に一からつくり上げることを実践したいという思いから、縁があり、設計から監理まで通して学ぶことのできる職場へ入所しました。建築の詳細から全体までを見つめ、さまざまなソフトとハードの関係を構築することを習得しようと努めています。あらためて、学生時代に仲間と議論をしたことが今の自分の力になっていると感じます。在校生の皆さん、人との出会いや会話を大事にしてください。自分を広げる第一歩になると思います。



宮野 順子 Junko Miyano



株式会社電盛社（熊本） 勤務
理学部物理科・平成18年度卒／大学院自然科学研究科理学専攻・平成20年度修了

私は現在、半導体製造装置をリモートで制御するソフトウェアの開発を行っています。半導体は、家電などのさまざまな機器に組み込まれており、私の作成したソフトウェアが、このような半導体の製造を自動化することに役立っていると思うと、とても感慨深いものがあります。大学時代は宇宙物理学の研究を行っていたため、現在の仕事と直接関係のあることはしていません。しかし、研究やアルバイト、友人との交流など、大学時代の経験すべてを仕事に生かすことができ、大学時代を有意義に過ごすことの大切さを実感しています。今後もこれらの経験を糧に、日々精進していきたいと思えます。



境 啓満 Hiromichi Sakai



文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課（東京） 勤務
薬学部薬科学科・平成17年度卒／大学院薬学教育部分子機能薬学専攻・平成19年度修了

在学中は朝早くから研究室のセミナーに参加したり、夜遅くまで遺伝子細胞に関する実験をしたりと、充実した毎日を過ごしていました。そのような中で内定をもらったのが厚生労働省でした。当時は、医薬品の安全性に関する問題が話題になっていましたが、薬学の知識を生かしつつも、社会に広く貢献できる仕事であると考え入省。薬事行政を担当し、法律や制度などについて勉強しました。現在は文部科学省に出向し、ライフサイエンス研究の振興に携わっています。学生時代にいろいろなことにチャレンジしておくことの重要性を、今あらためて実感しています。

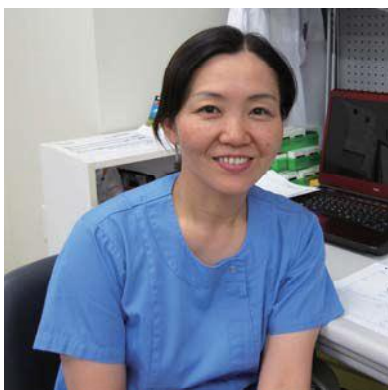


後藤 匡敬 Masataka Gotou



熊本県立球磨養護学校 勤務
教育学部小学校教員養成課程副専攻中学技術・平成14年度卒／大学院教育学研究科教科教育専攻技術教育専修・平成16年度修了

教育学部で過ごした4年間は学生寮生活。気の許せる寮生たちとの共同生活が、生活・勉学を両立する支えでした。大学院まで情報系の研究室に所属。習得したコンピューターの知識・技術は大変便利なものですが、それ以上に、先生方や学生仲間とのつながりが大きな心の支えとなっています。“縁”で始まった人とのつながりは、“絆”となり、今ではかけがえのない“財産”。子どもの成長を見守る今の仕事でも、子ども・保護者・教師など、人とのつながりが大切です。学生時代が気付かせてくれた、人とのつながりの大切さを、これからは子どもたちに伝えていこうと思っています。



岩政 浩子 Hiroko Iwamasa



済生会熊本病院麻酔科 勤務
医学部・昭和60年卒／大学院医学研究科脳免疫統合科学系神経分化学専攻・平成10年度修了

医学部卒業後、“人を生かす”仕事だと感じ麻酔科医になりました。臨床医として10年ほどたったころ、脳蘇生の研究がしたいと思い神経分化学教室へ。子ども2人を大学の保育園に預けながらの研究生生活でしたが、周囲の方々に助けられ、無事に大学院を卒業することができました。現在、医者になって25年目。済生会熊本病院は、心臓手術や脳外科手術など緊急手術が多く大変ですが、やりがいもあります。今は子どもも大学生と高校生。「もうしばらく頑張ったら少し自由な時間を作って、学生時代にしていたテニスをまた始めようかな」などと思いながら、麻酔科医として母として毎日頑張っています。

熊本大学設立60周年記念式典 歴史と伝統をはぐくみ、未来へ。新たな一步を記す



(上)「地域に根ざしたグローバルな大学を目指し、さらなる磨きをかけたい」と式辞を述べる谷口学長
(下)名誉博士・名誉フェローの授与式。日ごろの業績をたたえ、会場は多くの拍手で包まれた

未来を見据えた研究拠点として 世界に通用するリーダーを育成する大学へ

熊本大学は昭和24年の新制国立大学発足から60周年を迎え、11月2日（月）熊本県立劇場において「設立60周年記念式典」および「記念講演会」を開催いたしました。

記念式典には、文部科学大臣代理・加藤重治審議官をはじめ、蒲島郁夫熊本県知事、近隣大学の学長、熊本県選出の国会議員ほか、国際交流協定を締結している海外11カ国19大学の学長ら45人が参加。総勢約600人が式典に臨みました。

谷口学長の式辞では、これまでの軌跡を重んじながら未来を見据えた研究拠点として、世界にはばたくリーダーを育成し、さらに地域に根ざした国際的な大学を目指す決意を明らかにしました。また、来賓による祝辞、国際交流協定校の学長の紹介を行った後は、名誉博士、名誉フェローの称号授与が行われました。

名誉博士の称号は、学術文化交流や研究の発展に顕著な功績が認められた者に対し、また名誉フェローの称号は、本学の運営に顕著な貢献が認められる者や国内外で高い評価を得る優れた業績を修めた者に対して授与されるものです。この日の被授与者は、名誉博士

4名、名誉フェロー8名。授与式には12名のうち9名が壇上へ上がりました。優れた業績や顕著な功績をたたえ、各被授与者へ谷口学長から称号が授与されると、会場からは惜しめない拍手がわき起こりました。

その後、上海師範大学民族管弦楽団による中国伝統音楽が奏でられ、華々しく式典を彩りました。

式典終了後には祝賀会を開催。高等教育コンソーシアム熊本・米澤会長（熊本県立大学長）、熊本経済同友会・小栗代表幹事の祝辞を述べた後、熊本大学同窓会連合会・中島会長による乾杯が行われ、盛会のうちに記念すべき一日の幕が下ろされました。



上海師範大学民族管弦楽団の皆さんによる中国伝統音楽の演奏



結婚当初からこれまでの裏話も交え、親しみあふれる講演に会場は魅了された

記念講演「可能性への挑戦」細川佳代子氏 命を懸けて守り抜いた永青文庫の宝物

4月に「永青文庫研究センター」が開設され、心からうれしく思っています。細川家で一番大切なことは「永青文庫を守ること」。これまで埋もれていた宝や古文書を研究してもらえることは、細川家の願いでした。

初代・細川藤孝（幽斎）以降、信長・秀吉・家康の激動の時代、すべての支配者の信頼を得た細川家の知恵の一つは「全国の情報収集」。山あいには山伏の道場を作り、軍事拠点としました。正しい情報をいち早く手に入れ先陣を切る。それが細川

家の戦略です。

進取の気性に富んだ“わさもん”の忠興、忠利は5,000通もの文通を通じて情報を交換し、赤穂浪士の討ち入りの際にも天候から2カ月間何を食べたかまで、資料が残っています。細川家の歴史を守り継ぐ執念。応仁の乱では資料を滋賀県まで疎開させたという記録も残っているほどです。

細川家歴代当主が命を懸けて残した古文書が永青文庫の中にあることを皆さんもぜひ知って欲しいですね。



記念講演「心と脳」茂木健一郎氏 熊大生よ、プライドを持って！

人生は何が起こるかわからない。“どうなるのかわからない”連続の中で、人生の“偶有性”に向き合うことが大切です。それができれば脳はOK。脳が元気か、そうでないかは“人生の不確実性を楽しんでいるかどうか”。そのためには心の中に“安全基地”が不可欠です。

例えば、赤ちゃんはハイハイや伝え歩きを経て自分の足で立つ瞬間を迎え、見事に乗り越えて行く。その勇気の後押しをするのが、幼児期に親や周囲から与えられてきた“心の安全基地”なんです。

幼いころに大人から“見守ってもらおう安心感”が心に安全基地を作り、確実なことと不確実なことを確認できるようになる。脳でいえば扁桃体の回路が感情をコントロールするのですが、この安全基地が何よりも大切だと、最近脳科学でも明らかになってきました。

「自分の才覚を生かして、生きていこう」といえば、「もう遅い」と言

う人がいますが、そんなことはありません。脳はオープンエイドで、1千億もの神経細胞は一生動き、学習し続けるのですから、何歳であっても決して遅すぎることはないんですよ。

何歳になっても、情熱さえあれば、学ぶことができる。情熱を手には、人生を謳歌（おうか）しましょう。

誰かのために生まれる力は“無限”

ネットで全世界が結ばれた時代、チャンスはいくらでもあります。経済的にも重要な時代。待つだけでなく、世界に向けて地方から情報発信することが大切です。

若者には、自分のためではなく誰かのために事を成すことが無限のエネルギーを生むことを知って欲しい。他にみない学問のスタイル・質を自らつかみ取り、志を高く、理想の姿を描くことです。

「熊大生よ、プライドを持って！」と伝えたいですね。



(上)熱く観客に語りかける茂木健一郎氏 (下)記念講演会には多くの観客が集まり、熱心に耳を傾けた

国際学長フォーラム —第7回熊本大学フォーラム—



(上)くすの木会館レセプションルームにて行われた「国際学長会議」。各大学の発表を受け、議論が交わされた
(左)世界11カ国の交流協定大学26校の学長・副学長。休憩時間には、谷口学長と各大学の学長が談笑する場面も見られた



熊本大学工学部百周年記念館で行われた「記念講演会」には、一般市民や留学生など多くの聴講者が訪れた



「記念講演会」終了後の会場周辺は、留学生と各大学の学長・副学長の笑顔があふれ、国境を越えた交流の場となった

共同人材育成プログラム形成について 国際的教育研究連携の可能性

「国際学長フォーラム 第7回熊本大学フォーラム」が10月31日、熊本大学で開催されました。「熊本大学フォーラム」は大学の情報を発信する場であり、平成15年から国内外で毎年開催しています。今回は熊本大学60周年記念式典において「国際学長フォーラム」として実施し、世界11カ国の交流協定大学26校の学長・副学長が参加しました。

午前の部は「くすの木会館」で「国際学長会議」が行われ、海外協定校7校の発表と各大学が取り組む国際的教育研究連携についての紹介、具体的な共同研究や共同人材育成のプログラム形成などについて議論が交わされました。国際学長会議に参加した山東大学の婁紅祥 (Lou Hongxiang) 副学長はフォーラムの成果について「さまざまな大学が参加することで、国際化の中で直面する困難を克服するために協力し合うことができるし、学術的な進歩も期待できる。また、各大学との友情が生まれることも成果の一つだ」と述べました。

国際化推進に向けて 熊本大学の国際化戦略

午後の部は「熊本大学工学部百周年記念館」に会場を移し、大学関係

者や学生、地元市民を対象に「記念講演会」が行われました。午前の「国際学長会議」の成果報告と海外協定校4校が各大学の国際化推進活動について発表。熊本大学大学院自然科学研究科の檜山研究科長による発表では、留学生・外国人研究者の行き先としての熊本の良さ、優位性をアピールしつつ、熊本大学の国際化戦略の概要や特徴的な取り組みが伝えられました。

学生の可能性を広げる 積極的な国際交流活動の展開に期待

熊本大学は、国際化推進を全学的な重点課題として位置付けるとともに、積極的に国際交流活動を展開する方針を打ち出しています。谷口学長は「学生が将来活躍する場は日本だけとは限らない。例えばそれが世界のどこかであるとき、そこに一緒に学んだ友達がいることだけでも心強い。学生の可能性を広げるためには、さまざまな国の学生と一緒に学べる環境づくりが大切だ」と国際的教育研究連携の可能性について述べました。また、留学生を受け入れる上で、言葉や文化の問題、経済的サポートについて各国の問題や課題はさまざまだが、これを解決するには各々の理解が必要であることを強調しました。

「第55回日本病理学会秋期特別総会」において、 本学研究者が「日本病理学会学術研究賞」を受賞!



11月19日、20日に東京の九段会館で開催された「第55回日本病理学会秋期特別総会」において、本学大学院医学薬学研究部細胞病理学分野准教授・坂下 直実(さかした なおみ)氏が「日本病理学会学術研究賞」を受賞しました。

同学会は、幅広く疾患のメカニズムや成り立ちを研究する病理学領域の学会です。

今回の受賞は、20件余りの応募の中から選ばれた7件のうちの一つ。国内で行われた、優れておりかつ蓄積された研究であることを前提として選考が行われました。本学における今後の病理学研究に高い期待が寄せられているといえます。

第17回イブニングセミナー 「爆発と衝撃波の世界」



演 題:「爆発と衝撃波の世界」
講 師:伊東 繁
(熊本大学衝撃・極限環境研究センター長)
日 時/3月12日(金)18:00~20:00
場 所/キャンパスイノベーションセンター東京
対 象/どなたでも可
※要事前申込・参加費不要
※セミナー後の交流会参加の場合は参加費2,000円

【問い合わせ】
熊本大学東京リエゾンオフィス
Tel.03-5440-9093 Fax.03-5440-9093
研究・国際部社会連携課
Tel.096-342-2035 Fax.096-342-3239

東京を含めた首都圏近郊を拠点とする企業へ本学の研究成果を紹介し、共同・受託研究に結び付けることを目指すとともに、広く皆様に生涯学習の機会を提供します。

日本皮膚科学会熊本地方会 第1回市民公開講座 皮膚がんのお話



早く見つけると完全に治りますが、遅くなると命にかかわる場合もある皮膚がんについて学びます。

日 時/2月28日(日) 14:00~16:00
場 所/熊本市現代美術館 アートロフト
対 象/どなたでも可
※事前申込不要・参加費不要

【問い合わせ】
医学部附属病院皮膚科 形成・再建科
Tel.096-373-5230

平成22年度受講生募集を3月上旬より開始します。

公開講座

熊本大学の教員が「市民の生涯学習」のために企画した講座です。キャリアアップのための専門講座から生活の質を上げる教養講座、趣味の講座に至るまでバラエティー豊かな講座を用意。

場 所/熊本大学各学部等
開講時期/平成22年4月
対 象/一般社会人、学生など
募集期間/平成22年3月~

授業開放(前学期)

熊本大学の授業を学生と一緒に受講してみませんか。人文社会科学、自然科学、生命科学など多彩な分野の科目を開放。教養を深める学習や専門的な学習もできます。

場 所/熊本大学各学部等
開講時期/平成22年4月~9月
対 象/一般社会人(高等学校卒業程度以上の学力を有する者)
募集期間/平成22年3月~

【問い合わせ】
研究・国際部社会連携課
Tel.096-342-3121 Fax.096-342-3239
E-mail:manabou@jim.kumamoto-u.ac.jp

平成22年度受講生募集パンフレットは3月上旬より配布予定です。お電話、ファクスまたは電子メール(お名前・郵便番号・ご住所・電話番号・「熊大通信を見て」と明記)で右記問い合わせ先へご請求ください。公開講座と授業開放の最新情報は、下記ホームページでご確認ください。
URL <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/index.html>



熊大生協が地元企業とコラボレート 設立60周年記念オリジナル焼酎を限定発売



限定の「熊大焼酎」はアルコール度数が37度と、一般的な球磨焼酎の度数(25度)より高く、米焼酎「白岳」の原酒に近い香りとコクが特徴
「球磨焼酎 白岳37度 熊本大学設立60周年限定ボトル」
1,890円(税込)



武蔵焙煎工房(熊本市)と作るこだわりのコーヒーは、レギュラー・浅煎り・深煎りの3種の味でリピーターも多い人気商品
「熊大珈琲」
100g 280円(税込) ドリップパック 480円(税込)
200g 550円(税込)

11月18日、熊本大学設立60周年を受けて、熊大生協が地元酒造の協力のもと、“熊本大学限定焼酎”を発売しました。

発売から3カ月で300本を突破 人気のこだわり焼酎

熊本大学生協同組合では、これまでに数々の「熊本大学オリジナルグッズ」の開発・販売を行ってきました。そんな中、今年度は熊本大学設立60周年という記念すべき年ということもあり、「白岳」「しろ」などで知られる「高橋酒造株式会社」(人吉市)の

協力のもと、オリジナルラベルの焼酎を1,000本限定で発売しました。“熊大焼酎”は学内での人気はもちろん、学外から訪れた方々にも大変好評で、発売後3カ月ですでに販売数300本を超えました。現在、黒髪北地区学生会館ショップのみで販売中です。

高い評価を受ける 地域に根差した大学としての取り組み

同生協では、一般的な文房具や書籍の取り扱いのほか、これまでも地元企業との共同開発により、「熊大クッキー」「熊大珈琲」など独自の商品を積極的に発売しています。品質、オリジナリティはもとより、地域に根差した大学であることを意識したその開発姿勢は、学内外から高い評価を得ています。また、新たな商品の開発に向け、大学側スタッフとの意見交換や学生へのアンケートも実施。実用性を兼ね備えた、高品質の商品を提供しています。

今後も学内や地元の声に耳を傾け、ニーズに合った「熊大グッズ」の開発に取り組んでいきます。



株式会社お菓子の香梅(熊本市)とコラボレーションした「熊大クッキー」は、熊本大学のコミュニケーションマークをかたどっている「熊大クッキー」
1箱10枚入り
1,200円(税込)



熊本大学生協学生会館ショップの一角に並ぶ、オリジナルグッズの数々。帰省する際の土産にする学生も多いという



「ぜひ日常的に使って、熊大生としての愛学心を持ってもらいたい」と話す、販売担当の平澤さん



毎日多くの人が訪れる熊大生協。熊大グッズだけでなく、便利な生協としてのサービス、品ぞろえを常に心掛けている

熊大グッズのご注文・ お問い合わせ先

熊本大学生協学生会館ショップ
〒860-0862 熊本市黒髪2-40-1
Tel.096-343-6321
Fax.096-345-8239
E-mail:kum-shop3@kyushu.seikyoe.ne.jp
営業時間/ 8:10~19:00
※土・日・祝日、盆・正月は休業

同窓生、大学関係者など約130名が出席 「第2回熊本大学東京連合同窓会」開催



11月29日(日)、東京・上野公園の上野精養軒において、「第2回熊本大学東京連合同窓会」が開催されました。

総会では、江口工(たくみ)東京連合同窓会会長(工S28年卒)、中島最吉同窓会連合会会長(法文S29年卒)のあいさつの後、田中代表幹事(工S46年卒)から、前田勝之助東レ株式

会社名誉会長(工S28年卒)の、本会の名誉会長への就任報告が行われました。

記念講演会では、谷口学長から「未来に挑戦する熊本大学～誇れる大学から憧れられる大学へ～」と題して、秋山自然科学研究科教授からは「超瞬間極限力を操る研究者達の挑戦」と題した講演が行われ、出席者は熱心に聞き入っていました。

交流会は、前田名誉会長、崎元前学長のあいさつ、園田支援者会会長による乾杯で始まり、旧友との思い出話に花を咲かせました。

最後は、現役学生の体育会応援団第36代団長の森団長が「五高寮歌」の前置きである「巻頭言」を切り、出席者全員で寮歌を熱唱し、大盛会のうちに終了しました。

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.8(平成21年9月1日～11月30日)

卒業生、在学生の保護者、名誉教授の方々をはじめとした皆様から、平成21年11月30日現在で、総額約2億6,780万円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成21年9月1日から11月30日までの間にご入金を確認させていただきました個人200名、16法人・団体等のご寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。公開をご希望されないご寄附者につきましては、掲載

していません。

また、ご寄附者で万が一お名前がもれている場合につきましては、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望されたご寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【1,000万円】 宮本 博	【10万円】 紙谷 正夫(20)	高木 克公(20)	谷口 功(40)	森 好生
【500万円】 石田 啓	【5万円】 長谷場 琢哉	松尾 日出男		
【100万円】 今村 遼平(120)	【5万円未満】 阿部 一郎	安部 省司	井伊 末満	井上 昭
【70万円】 菅原 勝彦(170)		岩本 政志	柿野 完治	北野 寿
【30万円】 財団法人熊本放送文化振興財団		高松 満至	松本 明彦	森重 稔
【25万円】 林田 紀久男				山本 博伸
【20万円】 上妻 壽万子 鶴田 朱見 本田 富雄				

2. お名前のみ掲載を希望されたご寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

赤星 宏輝	味澤 泰夫	安部 寿士	荒木 民生	有馬 史材[2]	池田 脩	池田 才助	池田 善彦	板倉 徳也
稲田 博	岩本 守雄	上田 理[2]	宇梶 洋	内田 俊明	衛藤 正和	緒方 進一[2]	緒方 雄輔[2]	甲斐 俊哉
金川 祥一[2]	狩野 孝子	亀田 孟	川路 正平[2]	川本 眺万	菅 能久	木村 美喜男	教正院 敬子	清田 瑠璃子
九反田 利秋	工藤 敬一[2]	小森 昌章	小柳 光生	齊藤 泰臣	坂牧 秀太[2]	坂本 玲奈	迫 大介	佐藤 芳嗣
重徳 良夫	重信 明寛	志水 熊雄	下村 幸雄	末高 樹巳人[2]	関口 喜一	瀬口 賢一	千住 覚[2]	高橋 将徳[2]
武田 力	田尻 健一郎	田中 良純[2]	出口 公吉	手柴 秀孝[2]	戸高 啓行	永田 昌知	中野 公太	中山 純郎
中山 統雄	中山 洋	仁禮 尚道	布井 博幸	畠山 哲也	浜口 晃	浜田 実	菱村 珍秀	平永 博
広島 雅之	藤井 九州男	古川 允一	古川 雅通	古庄 愛二	別府 トシ子[3]	堀田 博志	町田 和美[2]	眞子 琢仁
村井 淳男[2]	桃原 久枝	森 祥二郎	八鹿 昭祝	山内 典之	山口 悦郎	山下 良平[2]	山中 弘道	山野邊 國雄[2]
吉迫 昭浩	吉野 克子	吉村 卓	米満 尚道	渡辺 喜一郎				
昭和41年電気工学科卒業生一同			堤化学株式会社[3]					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されないご寄附者

個人89名、13法人・団体等

— 未来の君に、エールを —

Discover your future



文学部

- 総合人間学科
- 歴史学科
- 文学科
- コミュニケーション情報学科

教育学部

- 小学校教員養成課程
- 中学校教員養成課程
- 特別支援学校教員養成課程
- 養護教諭養成課程
- 地域共生社会課程
- 生涯スポーツ福祉課程

法学部

- 法学科

理学部

- 理学科

医学部

- 医学科
- 保健学科

薬学部

- 薬学科
- 創薬・生命薬科学科

工学部

- 物質生命化学科
- マテリアル工学科
- 機械システム工学科
- 社会環境工学科
- 建築学科
- 情報電気電子工学科
- 数理工学科

熊本大学は受験生を応援しています。

熊本大学 チアリーダー部「BLAZES」五高記念館にて